

令和5年度
不動中学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ①「家庭学習習慣を確立し、主体的に学習に取り組もうとする生徒の育成」
- ②「基礎的・基本的な知識・技能を活用することができる生徒の育成」

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員	安西 政和(校長)	島田 佳美(教頭)
天羽 和恵		吉田 則子(教務・1・2年主任)	
		清水 英伸(3年主任)	
		矢部 恵子(特別支援教育コーディネーター)	

校長

安西 政和

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員による授業改善のための振り返る等、さまざまな機会を捉え、取り組み状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○テストに向けて課題などに取り組み、学習内容を理解しようとする生徒はいる。 ●学習に対して受動的であり、学習意欲の喚起や基礎的・基本的な知識・技能の定着につながる支援が必要である。	・仲間と協働的に粘り強く学習することができる。 ・基礎的・基本的な知識・技能を活用することができる。	・帰り学活での小テストの実施と小テストに向けて、生徒への支援と事後、指導の実施 ・基礎的・基本的な知識・技能を活用する学習活動の設定、定期テストでの問題出題			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○思考が求められる発問に対しても考えて答えようとする生徒もいる。 ●文章にまとめて書いたり、人に説明したりすることが苦手な生徒が多い。	・使用する語彙力を増やし、伝えたいことを正確に適切に書いたり、話したりして伝えることができる。	・自分の言葉で説明する学習活動の場面設定 ・辞書を引く場面の設定 ・コミュニケーション力を高める支援方法などの校内研修の実施 ・朝の学習時間において、音読活動の実施			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○授業や朝学習に真面目に取り組むことができている生徒もいる。 ●睡眠不足などの生活リズムの乱れから授業に集中出来ない生徒や宿題等の提出物の締切が守れない生徒がおり、家庭学習において、主体的・継続的に取り組めていない生徒が多い。	・学びをふり振り返り、不十分などを見直し、自らの学習を調整しようすることができる。 ・将来設計のビジョンを描きながら、自ら課題を見つけ、主体的に家庭学習に取り組むことができる。	・テスト前後に生徒自ら学習を調整することができるようにテスト計画表を活用するなどの機会を設定。 ・宿題の出し方を工夫し、教員間で情報を共有しながら個別に支援を行う。 ・ICTの活用			

令和5年度 学力向上ロードマップ

